
君と僕の星座

蜷岸 透

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君と僕の星座

【Nコード】

N1960M

【作者名】

蜷岸 透

【あらすじ】

星を題材にした、詩のような小説のような作品です

小学校時代に遊んだきりの、河川敷に辿り着く

空を見上げれば、あまたの星が、僕たちを抱くように覆っていた

君は白いブラウスを風で踊らせるように、星を追いかけていたね

僕はといえば、ただただ広大な星空を仰いでいるだけだった

星の中の僕は、ちっぽけだった

とても寒く、そして恐怖さえ覚える程に、星々は光輝いていたのだ

そんな時

君はまるで、全部わかっていたみたいに

「大丈夫だよ」

そう言っつて、僕の手を握って夏の大三角を指さし笑いかけてくれた

「私たちもきつと、織姫と彦星みたいに離れる時がくるかもね」

そう言う割には嬉しそうな彼女。僕の腕に体を寄せ、星と僕を見上げるように

「だって、ずっと仲良くしてたら、お父さんが妬むんだもの」

子煩悩な父親を持ってしまいましたから。彼女は苦笑しながら呟いた彼女の母親、僕の両親は、僕たちの交際を認めてくれている。だからこそ協力してくれた

そのおかげで今は二人。自然のプラネタリウム観賞会とあいなったのだ

「星はキレイだね」

彼女は見惚れるように、ゆっくりとつぶらな瞳に星を映していた

「昔の人　外国の人だけど、星座を勝手に作ったりしてたらしいよ」

ロマンチックだね。彼女はため息をつく

「……………こんなにすごいものを見たら、今までのお父さんとの揉め事が、全部つまらなく思えてきたかな」

彼女の瞳に、もう星はない。そこには、慈しむような笑顔を浮かべる僕がいた

「だって私たちは、織姫と彦星だもの。きつとお父さんも」

『違うよ』

「え……………」

『僕たちは、織姫と彦星じゃない』

僕は彼女に告げる

そしてそれは、僕なりの決意の形だった

『僕たちは絶対に離れなければならない。ずっと一緒にいる。君が嫌になるほど、僕は君を愛したい』

彼女は少し俯いた

『だから星座を作ろう。君と僕のように、ずっと寄り添いあっているような星を探そう』

その俯く顔を、ゆつくりと手ですくいあげる。彼女の瞳の中の星は、まるで波紋で乱れる水面のようになっていた

だからこそ僕は

『それが本当の、僕らの星座だ』

ゆつくりと、彼女に口づけた

彼女の頬を伝う天の川は星を映し、僕はそれを見て思っただった

ああ、今日も星は美しい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1960m/>

君と僕の星座

2010年10月11日07時14分発行